

I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

高松市立十河小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
3学級 89名	3学級 78名	3学級 98名	3学級 94名	3学級 98名	4学級 105名	4学級 17名	23学級 579名

○教員数 33名

◆学校の特色

本校の児童は、明るく素直で活動的な児童が多く、与えられた課題には真面目に取り組むことができる。その反面、自尊感情や自己肯定感が低い傾向が見られる。また、自分の考えを友だちに伝えることが苦手な児童が多く、様々な場面での児童相互の対話の活性化は大きな課題である。

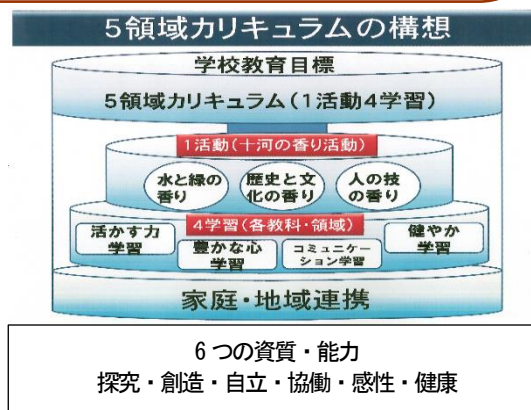
昨年度、アクティブ・ラーニングの指定を受け授業改善を1年間行ってきた。平成28年度の県学習状況調査児童質問紙の結果を見ると、「授業は楽しい」「授業内容が分かる」と答える児童が増えている。児童自ら課題を設定し解決に取り組む学習活動や、友達と話し合ったり、協働して調べ学習を行ったりする学習の成果が現れてきている。今年度の研究をさらに深化・発展していけるよう、学校と地域が一体となり研究を進めてきた。

II 研究主題等

研究主題 「十河の香り」を育み、未来を拓き社会に出る教育
～6つの資質・能力「5領域カリキュラム」の社会科・生活科の学習を
「問題解決的実践学習」で深める～

◆研究主題設定の理由

一昨年度より「十河の香り活動（総合的な学習の時間）」を核として1活動・4学習の5領域カリキュラムを編成し、6つの育てたい資質・能力の育成に向けて取り組んでおり、本年度はさらにその充実を図ることとした。また、主体的・協働的な学習を目指して「問題解決的実践学習」を行い、単元を通して子どもたちが友だちとともに主体的に追究していく授業づくりの推進を目指しており、このような研究主題を設定した。



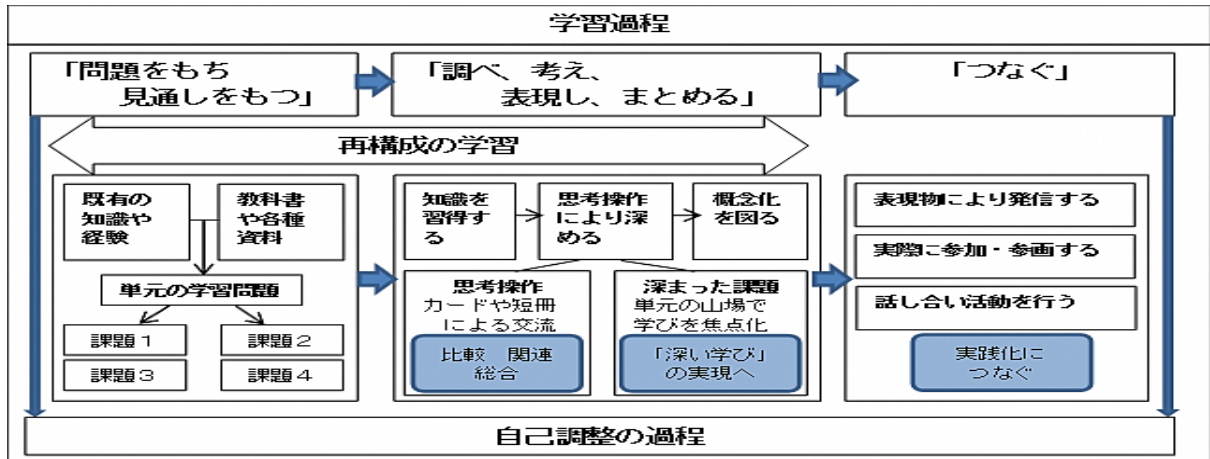
◆研究内容及び方法

（1）5領域カリキュラムによる教育課程の編成

本校がこの研究で取り組もうとしていることは、社会科や生活科の在り方について研究することだけでなく、教科横断的な資質・能力を育成するために、どのような教育課程を組むのかということである。5領域カリキュラムについては、中心となるのが1活動として位置付けている「十河の香り活動」である。この十河の香り活動とは、生活科と総合的な学習の時間一貫の家庭・地域連携による地域創生の学習であり、十河の自然、文化、歴史について、地域の方とともに学んでいけるようにしている。

(2) 問題解決的実践学習の充実

研究の中心となるのは、主体的・協働的に学ぶための学習過程である。学習過程は、次の3つの段階で単元を構成している。

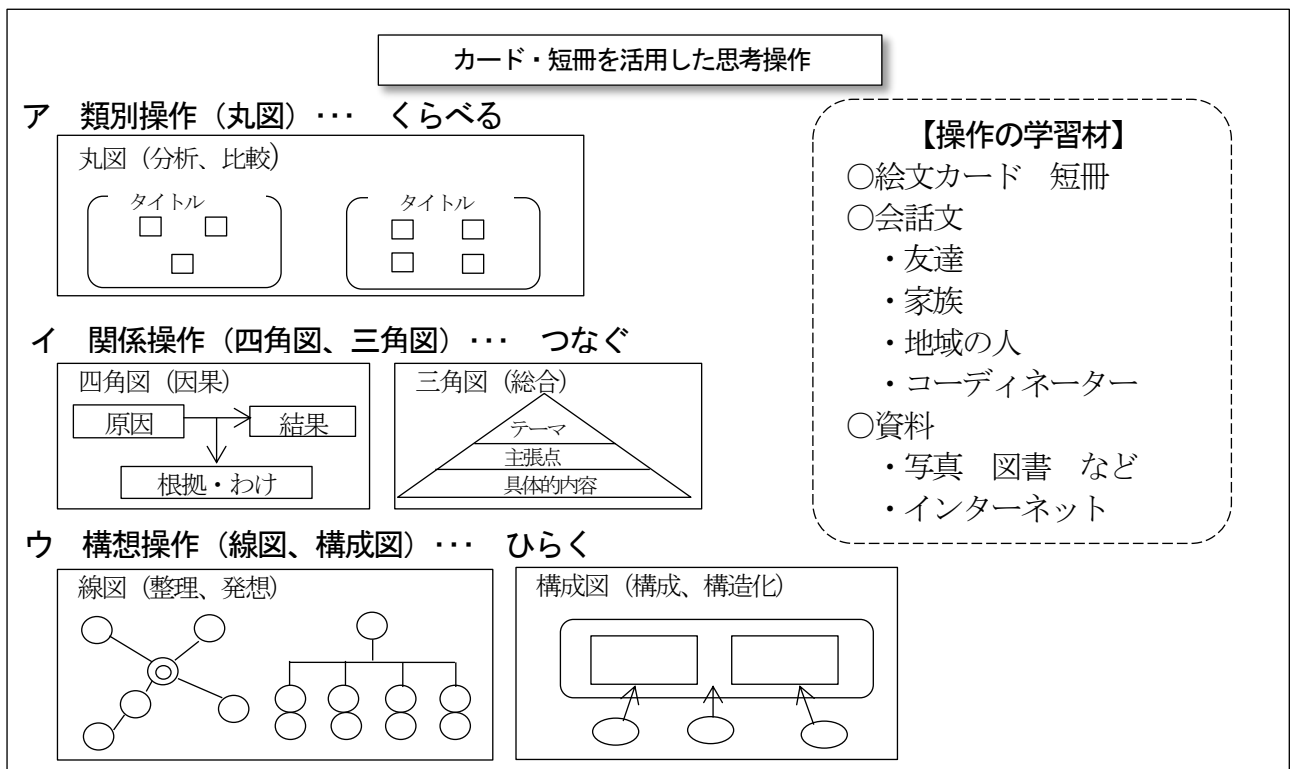


【アクティブ・ラーニングと問題解決的実践学習のつながり】

このように、単元全体における学習過程をしっかりと吟味していくことで、単元を通して子どもが主体的に追究していく授業となるようにしていく。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立て

本校では、カードや短冊、ノート等を活用した思考操作をする学習活動を多くの授業に取り入れている。カードについては付箋紙、絵カード、絵文カードなど、学年や単元内容によって使い分けている。短冊については、黒板に貼った状態でも読むことができるように、A3版用紙の縦半分の大きさのものを学校独自で作成し活用している。まず、交流を活性化させる前提として、自分（グループ）の考えをつくる場を保障するところから始める。そして、考えが書かれたカードを比べたり、つないだり、まとめたりする操作により思考を深めていく。また、グループ学習では、ホワイトボードやノートを活用することで可視化を図り、それをもとに多様な考えが話し合われるようにしていく。そして、最終的には全体交流を行うが、本年度は、いかに教師主導にならないように展開するか、子どもたちの意欲を大切にすることといった点に力点を置いてきた。

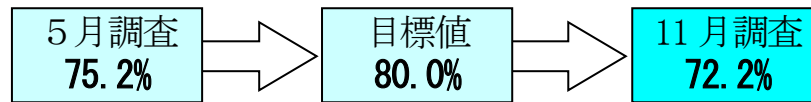


III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (児童質問紙) 自分には、よいところがあると思いますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」の合計



指標の達成に向けた実践

十河の香り活動 (子どもが主体的に学ぶための手立て)

(1) 香り活動の特色

学習の主題はそれぞれ、十河地域の特色から設定されており、子どもたちは週2時間の活動の中で、地域に出掛け、地域の方の話を聞く。子どもたちが自分の好きな内容を選択し、内容を追求することを通して、自己実現が図れることで、自尊感情が育ち、自分自身の良さに気付くことができることをねらっている。

	水と緑の香り	歴史と文化の香り	人の枝の香り
低学年	○アサガオ ○野菜 ○いきもの	○きせつへのんか ○きせつとあそび ○町のすてき	○みんな大すき ○自分のすてき ○ゆめ
中学年	○飲み水 ○ため池・用水	○祭り ○古いもの	○店 ○安全・防災
高学年	○米 ○野菜 ○森林	○城 ○歴史・遺跡	○麦・うどん ○菊

【香り活動各学年の学習主題】

① 自己実現をめざした総合的な学習の時間

(1) 高学年・城グループ

城グループは、十河地域の武将である十河氏やその居城であった十河城について1年間を通して探究している。十河一族やその居城について探究することを通して、十河地域の歴史を知り、地域への愛情を育むことが活動のねらいである。4月に地域の方にインタビューし、「十河氏のことを知らない人に、十河氏の魅力を知ってもらいたい」という思いから、今年度は戦国時代の「戸次川の戦い」をテーマに劇作りをする計画を立てた。11月の「十河の香り祭り」で発表するために、劇の台詞や実際人物の動きを子どもたちが一から考えて劇を作り、多くの地域の方の前で発表したことで、自分の取り組みが地域貢献に役立っていることを感じ取ることができた。

進んで活動できた	◎ ○ △
友だちや地いきの人とかかわりながら活動できた	◎ ○ △
活動を通して新しい気づきがあった	◎ ○ △
★ 上のことについて、がんばったことやできたことを書きましょう。	
十河さんやあべ先生のアドバイスをまよりにして十河氏のみ力が伝わる劇を作ることにできてうれしかったです。	

【子どもの振り返りカード】

(2) 中学年・祭りグループ

祭りグループは、十河地域の人といっしょに十河を盛り上げる祭りをつくるため、1年間を通して探究している。地域のために自分たちができることは何かを話し合い、校区の鯉宇神社の秋祭りに子ども獅子で参加した。さらに、11月の「十河の香り祭り」でも獅子舞を披露し、多くの地域の方から「子どもたち獅子舞で、地域が明るくなる。」という言葉をいただき、「十河の地域を盛り上げたい」という目標を達成することができ、自分たちの活動に自信をもつことができた。



【地域の祭りに参加】

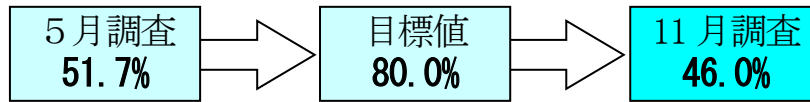
社会に開かれた教育課程の理念のもと、家庭・地域と連携・協働しながら総合的な学習の時間の実践を充実させることで、地域の多くの方と関わり、地域の良さに気付き、児童自身が地域や自分の将来の在り方を考えることにつながっている。また、単元を通して、子ども自身が学びの内容と方法を定める場面を設定することで、1年を通して、子どもが主体的に学ぶことができ、自分の学びに自信をもてるようになっていく。活動の最後には、毎回振り返りカードによって自分たちの学びや成長を振り返っている。自分たちで活動を進め、めあてを達成することにより、自尊感情を高めることができた。

◆指標設定と達成に向けた取組

2 (児童質問紙) 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。

指標

「①思う」



指標の達成に向けた実践

問題解決的実践学習(深い学びの実現に向けて)

(1) 問題解決的実践学習における「深まった課題」の設定による内容と深まり

単元展開の最初の段階では、単元の学習にどんな内容や表現があるかといったことに関心をもつが、本質的な「なぜ」「どうして」といった追究意識を伴った意識までには至らない。深まった課題は、単元が進むにつれて調べたいこと、考えたいことが焦点化してきた時に子どもから生まれる課題である。この深まった課題により探究的に学ぶことを通して、魅力ある学習が成立してくると言える。また、この深まった課題による問題解決的な学習は、友達の話や意見を聞くことが必須となってくる。

(2) 深まった課題に至るまでの様子(第3学年社会科 工場の仕事～熊野蒲鉾店のひみつを探ろう～)

① 問題を持ち、見通しをもつ段階

スーパーマーケットの見学の際、売られている天ぷらが近くにある蒲鉾店で作られていることに気付いた。そして、熊野蒲鉾店は110年続いていることを知り、「どうしてこんなにも長い間続けてこられたのか」、「どんな工夫をしているのか」などの疑問が挙がり、「110年続く熊野蒲鉾のひみつを考えよう」という学習問題や学習課題を設定し、学習がスタートした。



【スーパーマーケット見学の様子】

② 調べ・考え・表現し、まとめる段階



【工場見学の様子】

安全面
衛生面
おいしさの工夫
に気付けたよ!



リエットってどんな食べ物?

パンに塗る?!
蒲鉾とは違うのかな?

深まった課題

なぜ、かまぼこ屋さんなのに500万円という費用と10年という歳月をかけて、かまぼこでも天ぷらでもない商品を作ったのだろう。

深まった課題を追求していくと、子どもたちは次のようなリエットを作っている理由を考えた。

- たくさんの人に魚を食べてほしいから
- お客さんを喜ばせたいから
- 若い人にも食べてほしいから
- 瀬戸内・四国の良さを伝えたいから

ぼくの考えと友達の考えは違うんだ!
どうして、友達はそう考えたのかな?
友達の考えを聞いてみたい!



深まった課題の設定により、リエットについて詳しく調べ、リエットに込められた熊野蒲鉾店(生産者)の思いに気付くことができた。そして、生産者の思いを考えたカードを分類し、全体交流でさらに深めていった。調べた根拠をもとに話し合いを行うことで、子どもたちが「友達の話や意見を大切に感じ、聞きたくなる状況をつくることができた。このように、子どもが話し合いの必要性を実感することで、お互いの考えを深く理解し、最後まで友達の意見に耳を傾ける姿が見られた。しかし、質問紙のポイントは低下している。そこで今後は、社会科・生活科だけでなく各教科で話し合う機会をさらに取り入れ、学び合う雰囲気を育てていきたい。

◆指標設定と達成に向けた取組

3 (児童質問紙) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。

指標 「①できている+②どちらかといえはできている」の合計



指標の達成に向けた実践

思考操作を通した対話の在り方

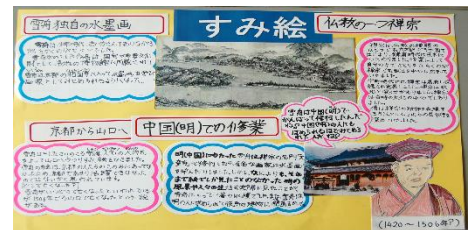
(1) 対話的な学びのとらえ方

深い学びの過程には、主体的な学びと対話的な学びが必要不可欠である。本校では、子どもたちが自分の学びを整理したり、思考操作を手がかりに対話したりすることができるよう、研究を進めてきた。また、付箋紙や絵文カードを類別したり、事象と事象のつながりを考えたりするなど、様々な思考操作の研究を進めてきた。

(2) 思考操作を通した対話の様子(第6学年社会科 室町文化を調べよう)

① グループの調べを交流する場面

右のように、子どもたちは室町文化について調べ、まとめている。墨絵を調べたグループであれば、「雪舟の活躍」(人)、「京都から山口へ」(場所)、「中国(明)での修行」(外国)、「仏教の一つ禅宗」(宗教)など、4つの視点を意識した調べを進めていくことができた。そして、調べを通して見つけたこれらのキーワードを各グループが発表し、クラス全体で黒板に表を完成させた。



【室町文化の特色をまとめた表現物】

② 個→グループ対話の場面

平安時代の文化をまとめた文化年表と、発表して黒板に位置づけた室町文化のキーワードを比較しながら、個人で付箋紙に室町文化のキャッチコピーと、そう考えた理由を書いた。そして、その付箋紙を持ち寄り、グループで1つのキャッチコピーを作成した。

③ 全体で対話を通して考える場面

「クラスで一つのキャッチコピーにまとめるには、どの言葉を入れる必要があるか」、対話を通し考えていった。平安時代と室町時代の文化を比較し、一番の違いは人と場所であると話が焦点化していき、「みんな(貴族・武士・庶民)が楽しみ、そして、全国に広がった室町文化」と、キャッチコピーを完成させた。

④ 子どもが学び方を知る工夫

本実践では、文化の学習(奈良時代・平安時代)と同じ流れで行った。子どもたちは教師が指示を出さず、自分たちで見通しを持ち学習に取り組むことができた。

平安時代の文化				
平安時代の文化のキャッチコピー 都で貴族が日本風の文化を築き上げ、極楽浄土を夢見た平安文化				
楽しんだ人・支えた人	盛んだった場所	仏教とのつながり	外国とのつながり	室町時代の文化のキャッチコピー みんな(貴族・武士・庶民)が楽しみ、そして、全国に広がった室町文化
<ul style="list-style-type: none"> 貴族が楽しんだ源氏物語 多くの貴族が住んだ寝殿造 貴族や上皇が参拝した熊野古道 	<ul style="list-style-type: none"> 京都府宇治市の平等院鳳凰堂 都の京都に建てられた、寝殿造 	<ul style="list-style-type: none"> 浄土信仰とのつながり(平等院鳳凰堂)(熊野古道) 極楽浄土(阿彌陀仏)などがある苦しみのない世界 	<ul style="list-style-type: none"> 唐から来た多くの遊び 唐の影響を受け、日本独自の絵画「大和絵」 漢字からできた日本の文字「かな文字」 	
室町時代の文化				
楽しんだ人・支えた人	盛んだった場所	仏教とのつながり	外国とのつながり	
<ul style="list-style-type: none"> 雪舟独自の水墨画 足利義政が作った東求堂 町人たちが力を合わせた祇園祭 働く農民が楽しんだ田楽 	<ul style="list-style-type: none"> 京都から山口へ広がった水墨画 香川に伝わる念仏踊 京都から全国へ広がった祇園祭 	<ul style="list-style-type: none"> 仏教の一つ禅宗の影響を受けた生け花、水墨画 禅宗の僧たちが寺で楽しんだ茶の湯 禅宗とのつながりがある書院造 	<ul style="list-style-type: none"> 中国(明)での修行雪舟 茶の湯の始まりは中国から 	

【本単元における思考操作の概略】

思考操作を活用して、個・グループ・全体と学習を進めていくことで対話が生まれ、学習対象の深い理解につなぐことができた。また、思考操作や図を活用することで、互いの考えが可視化され、対話を活性化することができた。

◆指標設定と達成に向けた取組

4 (児童質問紙) 学級では、安心して自分の意見を言うことができますか

指標 「①できている+②どちらかといえはできている」の合計



指標の達成に向けた実践

安心して自分の考えを友達に伝えるための工夫

(1) 子どもが自分の意見をもつために

子どもたちが自分の意見をもつために、学習対象に対する深い理解が必要である。また、実際に活躍する人に話を聞いたり、見学に行ったりすることで、資料からは気付くことができない事実を、五感を使い得ることができる。本年度は、子どもたちが自分の考えをしっかりとめるよう、体験や表現の充実を図った。






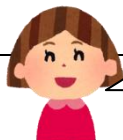
【実際に体験したり、話を聞いたりしている様子】

(2) 相手に自分の考えを伝える力の育成 (第1学年生活科 通学路探検に行こう)

① 自分の学びの足跡が残る表現物の活用

通学路探検で見つけたものや出会った人について探検マップにまとめよう。

思考操作	表現物①	表現物②
<p>おすすめをかいた絵文カードを仲間分けすることで、自分たちの通学路のよさに気付いた。</p> 	<p>おすすめを絵地図に表すことで、通学路全体の様子をつかむことができた。</p> 	<p>おすすめがつまった、通学路ツアーを考え、「友達を案内したい。」という思いが高まった。</p> 



みんなの調べたことがつまったマップになったね！
自分たちのマップを違うコースの友達にも紹介したい！

探検マップの危険箇所に安全を守る秘密カードを貼ろう。

探検マップの危険箇所に安全を守るひみつカードを関係付けながら貼っていくことで、危険なところには安全を守る施設があることに気付いた。さらに、自分が気を付けることを考えて吹き出しに書き加えることで、危険な場所では施設を正しく利用し、どのようにすればよいかを考えることができた。友達に自分の考えを伝える際には、思考操作を通してまとめた探検マップを示しながら説明することで、根拠を相手に伝えることができた。

また、教室内に町の様子を写真で掲示した。相手にどんなところが危険か伝える際、言葉で説明が難しい子どもは写真の所まで行き、指し示しながら意欲的に説明することができた。



【思考操作で考えを可視化】



【見学を想起させる教室掲示】

実際に体験したり、人とかかわる体験を取り入れたりすることで、子どもたちの学習への認識が深まった。また、単元を通して子どもが学んだことを表現物にまとめていくことで学びの足跡が残り、それを手がかりに考えたり自分の考えを友達に伝えたりすることができた。相手に自分の考えを伝えるには、思考の可視化が有効だと考える。

◆特徴的な取組

(教員アンケート) 児童生徒の多様な考えを引き出したたり、思考を深めたりするような発問や助言等をしていますか。

指標

「①できている」



(教員アンケート) 普段の授業で児童生徒の学び合う場を取り入れていますか。

指標

「①できている」



カリキュラム・マネジメントによる授業評価

今年度からは、研究授業後の討議を、カリキュラム・マネジメント、PDCAサイクルを意識した討議の在り方について研究を進めた。

従来の授業討議では、授業の成果や課題について、個人あるいはグループで述べるのが大半だった。しかし、討議内容にばらつきがあるため、討議が深まらないことなどが課題であった。

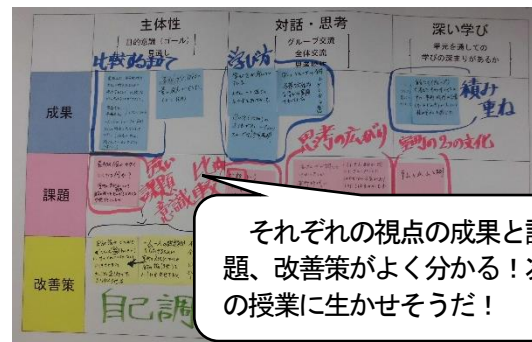
そこで、今年度、マトリクス表を用いた授業討議を行った。主体性、対話・思考、単元を通しての深い学びの3つの枠について、「成果」「課題」「改善策」を付箋に記入する。この3つの枠の内容は、授業者が参観者に話し合ってもらいたい観点に変更することもできる。参観者は記入した付箋をグループで分類したり、比較したりしながら意見をまとめていき、全体で交流していく。視点を設け、操作しながら意見を集約することで、自分のものへと取り入れやすくなった。同じ内容についても、グループによって見方・考え方が違っており、その捉え方も参考にすることができた。また、授業の評価、分析に力を入れることで、研究の課題を明らかにし、修正や改善を図りながら次の授業へとつないでいくことで、質を高め続けながら研究を進めることができた。

このようにカリキュラム・マネジメント、PDCAサイクルを意識した討議を行うことで、授業者だけでなく、学校全体で試行錯誤を繰り返しながら研究を深めることができた。



自分なら、この場で「OO」と発問すると思うな！

【授業討議の様子】



それぞれの視点の成果と課題、改善策がよく分かる！次の授業に生かせそうだ！

【授業討議後のマトリクス表】

IV 研究の成果と課題

1 成果

(1) 5領域カリキュラムによる教育課程の編成

本校の児童は、全国学力学習状況調査や県学習状況調査の結果を見ると、「自分の良いところを見つけられない」児童が多く、自己肯定感が低い傾向が見られた。しかし、徐々にではあるが、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童が増えてきている。それは、社会に開かれた教育課程の理念のもと、家庭・地域と連携・協働しながら総合的な学習の時間の実践を充実させることで、地域の多くの方と関わり、地域の良さに気付き、児童自身が地域や自分の将来の在り方を考えることに、つながっているからだと考える。

H28年度

質問番号	質問事項									
(9)	将来の夢や目標を持っていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	54.8	16.5	12.6	11.8	1.8	1.8	0.0	0.0	0.9	0.0
香川県(公立)	63.8	19.4	9.3	6.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
全国(公立)	68.6	16.7	8.2	6.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1

H29年度

質問番号	質問事項									
(10)	将来の夢や目標を持っていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	63.5	21.2	11.8	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
香川県(公立)	66.7	17.1	9.1	5.9	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
全国(公立)	70.0	15.9	8.1	5.9	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0

+13.4%

84.7%

(2) 問題解決的実践学習の充実

県の学習状況調査の質問紙では、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。」と答える児童が増えてきている。今年度は、生活科・社会科だけでなく、理科や算数といった、他教科においてもアクティブ・ラーニングを意識した問題解決的実践学習で授業研究を行うことができたからだと考える。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立て

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、思考操作を手がかりに、対話のある授業を設計した。思考操作を行うことにより、子どもの思考が可視化でき、その後の全体交流でも個人・グループでの思考操作が生かされる場面が見られた。

(4) 研究を広げる

今年度は、生活科・社会科だけでなく、理科や算数といった、他教科でもアクティブ・ラーニングを意識した問題解決的実践学習で授業研究を行った。また、本年度転任してきた教員も、本校の研究を受け教材開発を行った。来年度はさらに教科を広げたり実践者を増やしたりするなど、本校の研究を深めていきたい。

2 課題

今年度、思考操作にもとづいた対話のある授業を設計してきたが、全体交流になると子どもたちの勢いが低下し、教師主導となってしまう場面が多くあった。それは、思考操作を通して「何が見えてくるのか」「何のために、図にまとめるのか」という、思考操作と学習問題の解決とのつながり、言いかえると、思考操作の必要性を児童自身が見出すことができていなかったからだと感じた。今後、子どもの学びの文脈に沿った必要感のある思考操作を授業中に位置付けていきたいと考えている。